



Herald 日本ヘラルド映画〈カラー作品〉



300万人の囚人を見張る自由の女神
1997年マンハッタン島は巨大な監獄となつた！

そこで何が起こるのか！
秒刻ざみの興奮を呼ぶ近未来SF超大作！

スリル1997



1997年、NYは監獄となった！

NYはぼくらの街だ。コンテンポラリーでヴィヴィッドな街、何が飛び出すか分からない街、そこがたまらなく魅力なんだ。NYの事を考えると、思わずトリップしてしまう。

’80年代のNYは、ぼくらは全て見透せる。ところがここに世紀末のNYが姿を見せてくれた。ぼくらでさえ、とても想像できなかつた姿だ。1997年、NYは監獄となり、全米中の囚人たちがマンハッタン島に集められた、というのだ。『ニューヨーク1997』。このド肝を抜く大胆不敵、奇想天外なトリップ感覚に脱帽!!

自由の女神は絶好の監視塔だ！

監獄の第一条件は脱獄不可能なこと。そこでこのNYプリズンには、考え得る限りの脱獄防止の細工が施してある。

マンハッタン島を囲む全ての川、水路には高圧の殺人電流が流れ、橋という橋には地雷が埋設されている。そして、四方は見上げるばかりの壁だ。さすがのぼくらもビビるぜ。

あの自由の女神はといえば監視塔だ。気高き女神に巻きついた有刺鉄線。誇りに満ちた目からは赤色のスポットライト。監視塔としては完璧だ。それにしても、何とも空恐ろしい光景ではないか。

オカマの囚人がイカしてるぜ！

横じまの囚人服、坊主頭なんてナンセンス。1997年の囚人たちには実にファッショナブルだ。世紀末、テカダンなムードと挑発的なギラギラファッションは奇妙に似合うんだ。

“素敵”なオカマが男を誘えば、ストリートギャングが行き過ぎる。マジソン・スクエア・ガーデンではテスマッチが行われ、何千もの囚人が目を輝かせる。何せ300万人もの囚人がいるんだ。脱獄は不可能だし、食糧は月に一度投下されるだけ。夢も希望もありません。刹那的なバイオレンスに生きる囚人たち、異様な迫力が圧倒的。

監獄のド真中に大統領専用機が不時着！

サミットへ向かう大統領専用機が、こともあろうにNYプリズンのド真中に不時着した。しかも大統領は国家の存亡に関わる重要書類を携えていた。こんな“チャンス”を血に飢えた囚人たちが見逃がすはずがない。

監獄きっての凶悪ストリートギャング“ジブシーズ”は、さっそく大統領を捕虜にした。彼らの提示した大統領解放の条件は“300万人の囚人の即時放逐”。何たる大胆な要求！そこで政府は、これまた驚くべき対抗手段に出た。いよいよ始まった。このスケールにはワクワクするぜ。



片目のマウトローがぼくらのヒーローだ

スネーク・プリッスケン。300万の囚人も恐れあのく犯罪の帝王。頭脳明晰、沈着冷静、動作敏捷の極悪人。黒いアイマスクで片目をおおい、長髪をかき上げ銃を構える姿は、ほれぼれするほど絵になるぜ。

そのスネークがNYプリズンに送り込まれた。何故彼が？理由は簡単だ。政府は大統領救出を条件に彼の釈放を約束した。ただし、24時間以内に。さもなければ、彼の頸部に注入された特殊ニトログリセリンが炸裂する、というわけだ。ぼくらがヒーロー、スネークが走り出した……。

不可能に挑戦するときドラマが生まれる

巨大な監獄に潜入したスネーク。彼を待ち構えていたのは、無数のストリートギャングたち。ビルの屋上、入りくんだ路地、地下鉄の出口、マンホールの中から彼らはスネークに襲いかかる。

“ジブシーズ”的アシトにたどりついたとき、スネークはすでに傷だらけだった。脂ぎった巨漢との凄絶な格闘。武器など必要ない。素手でのぶつかり合いだ。スネークは巨漢をなぎ倒した。次は脱出だ。街を駆け抜け、壁をよじ登り、不可能な脱出行が始まった。だが、もはや時間はない。

J・カーベンターはぼくらの憧れだ

J・カーベンター32才(1948年生まれ)。彼はいつもぼくらの映画的好奇心を満たしてくれる。「ハロウィン」の殺人鬼、「ザ・フォッグ」の亡靈に熱狂していたら、今度はこの「ニューヨーク1997」だ。心憎いほどぼくらの心情を分かってくれている。

彼はUSC在学中から映画大好き少年で、卒業後ダン・オバノン(「エイリアン」原案者)と組んで製作した「ダーク・スター」は最高に楽しいSFの名作だ。「ニューヨーク1997」は彼の初のアクション大作。嗚呼、憧れのカーベンター。

映画的魅にあふれた近未来サスペンス

奇想天外なシチュエーション。大スペクタクルのアクションシーン。時間との争い。息もつかせぬサスペンス…。娯楽映画の全ての要素を詰込んだこの「ニューヨーク1997」。しかもアナクロな娯楽大作ではなく、ぼくらの感性にマッチしたエンターテインメントなんだ。

スタッフ、キャストの多くはいつものカーベンターファミリー。いつまでも“映画青年”的彼らは、製作費700万ドルのこの“大作”でも手作りの感覚を忘れていない。そこがまたうれしいではないか。

5月23日全ロードショー

DOLBY STEREO

日比谷映画

特別鑑賞券1200円・発売中

(当日一般1500円/学生1300円のところ)

NEW YORK



製作ラリー・フランコ

デボラヒル

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)

カート・ラッセル

リー・パン・クリフ

アーネスト・ボーゲン

アドrienヌ・バー

制作年1995年

監督ジョン・カーベンター

脚本ジョン・カーベンター

ニック・キャッスル

日本へ作品映画 Herald

(カラー作品)